

- 再生可能エネルギーの活用：創エネ
- 建物の省エネルギーの徹底：省エネ
- 森林整備・保全によるCO₂吸収：固定

三重大学 キャンパスのカーボンニュートラル (キャンパス緑花・桑の木編)

知っていますか？

上浜キャンパスでは、養蚕^{※1}に利用されていた桑の木も観察できます。

※1 養蚕 カイコを育てるため、飼料となる桑を栽培し、繭を作らせることで絹糸を生産する。



■ キャンパス緑花

人と自然の調和・共生をめざし、地域に根差した緑あふれる環境先進大学としての**キャンパスづくりを推進**しています。

1

■ 桑の木利用と地域の文化資源

三重大学の前身の三重高等農林学校時代には、養蚕に桑の**葉**を利用するため、桑の木を栽培する桑園がありました。桑を栽培し、蚕を飼育し糸を紡ぐ養蚕は、『魏志倭人伝』にも記載されており、すでに弥生時代から日本列島で養蚕が行われていたことが知られており、平安時代には伊勢国の税（特産品）として絹が納められていました。時を経て、明治時代から昭和初期にかけての養蚕業は日本の主要産業となり、キャンパスのある津市周辺は、紡績産業が盛んに行われていました。また、桑の**根**は漢方薬であり、「桑根白皮」の記載がある木簡^{※2}が飛鳥時代の遺跡から発見されており、古代から利用されていたことが知られます。現在はキャンパスに溶け込み、初夏にはジャムとして人気のある桑の**実**（マルベリー）が結実し、新緑に彩りを添える地域の文化資源といえる存在になっています。



※写真上の番号は、桑の木の位置



三重大学マスコットキャラクター ミールド

2050カーボンニュートラルに向けた取組計画

国立大学法人 三重大学
地球環境センター
施設部 2024年11月

